SHIMANE University

Shimadai

2013.1 vol.15
島根大学広報誌
広報しまだい

ふるさと「島根」への想い。

【学長スペシャル対談】
声楽家 歌・唄がたり
大岩誉子さん

島根と世界を結ぶ架け橋に
島根大学留学生が
農村民泊体験で異文化交流。

声楽家　歌・唄がたり
島根大学教育学部特音課程声楽科卒業

大岩誓子さん×小林祥泰

OIWA CHIKAKO　KOBAYASHI SYOTAI

島根大学 学長

ふるさと「島根」への想い。

ゲストは、自らを「歌・唄がたり」と称して、唄を通して世界に日本文化を伝え継いでいる、声楽家の大岩誓子さん。中国における幼児教育の話や、ふるさと・島根への想い、さらには3月に東京で開催される「古代出雲文化フォーラム」への意気込みなどを語り合いました。

大岩(旧姓　西谷)誓子さん(右)／1951年旧平田市に生まれ、斐伊川河畔の豊かな自然に育まれる。島根大学教育学部特音課程声楽科卒業。同大学同学部幼年教育修了。"唄は地球の共通語"をテーマに、唄によるコミュニケーションにより、世代を超えジャンルを超えて日本文化を大切に伝え継ぐ役割を担っている。島根県の良さを広くPRする「遣島使」や、歴代「埼玉の女性100人(知事公認)」として、国内外における招待演奏・大学講演等を積極的に努める。
永年の芸術・文化・教育活動の社会貢献に対し2000年「下總皖一童謡音楽賞」を受賞。

■各界で活躍する島根大学卒業生からのメッセージ
ようこそ先輩、来たれ後輩 …… 9

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介
①教育学部 原丈貴准教授 …… 11
②総合理工学部 山本真義准教授 …… 13
③生物資源科学部 小林伸雄教授 …… 15

■財務報告 …… 17
■しまだいトピックス …… 19
■サークル紹介 …… 21
弾き語りサークル「スナフキン」
医学部硬式テニス部(看護学科)
■島根スサノオマジック紹介
島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント …… 22

「月の沙漠」から生まれた、中国とのご縁。

学長　中国にはほぼ毎年のように行かれているようですね。中国での活動を始められたきっかけは何だったんですか。

大岩　14年ほど前になります。私のステージに、熱心に足を運んでくださる中国の男性がいました。その方は画家で、日本で勉強中に私の歌う「月の沙漠」を気に入ってくださり、そうするうち、新しくオープンする杭州美術館から招聘状が届いたんです。「月の沙漠」を歌いに来てほしいと…。

学長　それはすごい話ですね。でも、なぜ「月の沙漠」なんでしょうか。

大岩　祖母がよく歌っていました。私自身も愛着がある曲のひとつなんですが、コンサートにいらっしゃるお客さまたちもいつか「月の沙漠」を心待ちにしてくださるようになったんです。杭州美術館のオープン当時は、中国に行くにはまだビザが必要な時代でしたから、一生行くことはないだろうと思っていました。でも、熱心なお誘いの言葉が何度も届き、世界中から集まった美術家や書道家の前で日本の名曲を数曲唄いました。その夜「このまま敦煌に来て、美しいゴビ沙漠でもぜひ『月の沙漠』を歌ってほしい」と。

学長　それは思いがけない展開ですね。

大岩　結局、半年後に敦煌市政府は、莫高窟の発見100周年記念として美しい月牙泉を臨む鳴沙山で「月の沙漠コンサート」を開催してくださり、一年後には、議会が「大岩誓子音楽賞受賞祝賀訪日団」と称して市長と一級舞踏演員など17名を私のもとに派遣したんです。埼玉県知事はもとより、島根県庁にも旧平田市長室も表敬訪問したんですよ。

学長　そこから中国との深い関わりができたんですね。たしかに「月の沙漠」は、中国の方にとってはふるさとの情景を思い起こさせる歌なのかもしれませんね。他にも、海外で感動に残る体験がおありとか。

大岩　昨年2月、スリランカの(戦災・津波)孤児院で10才の少年が堂々と朗々と唄ってくれた「ママのうた」。4月は世界の殿堂カーネギー大ホールで、独唱を始めた瞬間に〝声のブーメラン〟を体感しました。ニューヨークから世界へ、この1年の被災地復興支援のお礼と、支援継続のお願いの心を伝えるために渡米したんです。でも、原点は20年以上前のカナダ。唱歌交流を仰せつかった際、日系家族の日常に今も息づいている〝古き良き日本の食文化〟と〝美しい日本語〟にうっとり…満点のオーロラ踊る北欧のコタで唄った夜は、サーメ人の〝全てを土に還す〟暮らしぶりに心打たれ…そしてドイツ。子どもたちと歌あそびを楽しんだ夜、ローテンブルクの城跡を散策していたとき、ちょうど月が昇ったので請われるままに「荒城の月」を唄ったら、そぞろ歩きの観光客が自然と集まっ

2013.1 vol.15
Shimadai
島根大学広報誌
広報しまだい

■学長スペシャル対談
島根大学教育学部特音課程声楽科卒業
声楽家　歌・唄がたり　大岩誓子さん …… 1
■島根と世界を結ぶ架け橋に
農村での異文化交流から、グローバルな人材育成を …… 5

ただただ島根が好き。その気持ちだけで歌っていける。

今回の対談は、大岩さんが愛してやまない宍道湖を臨む「松江宍道湖畔　皆美館」にて和やかに行われました。当日は晴れたり曇ったりの空模様でしたが「刻々と変わる湖の表情に引き込まれます」とにっこり。

教育者に必要なもの、それは人間力。

てきてアンコールを。「ローレライ」を日本語で歌うと、その場にいた世界各国からの観光客たちが、皆自分の国の言葉で歌い始め、大合唱になったんです。その時の感動は今でも忘れられません。「唄は地球の共通語」だと実感した、まさにその瞬間でした。

学長　「共通」といえば、教育も世界共通です。大岩さんは島根大学の教育学部出身ですね。

大岩　幼稚園教諭だった母に憧れて、幼児教育に携わりたいと願い続けた人生ですから、他の国と同様、中国でも子どもたちの生活を見せていただきました。

学長　そこでどんなことを感じましたか？

大岩　例えば絵画のクラスだと、画家の絵を真似るのが「上手な絵」とされていたんです。本当に描きたい絵を描けているの？と質問したところ、幼稚園の先生から逆に「どういうことなのか教えてほしい」と尋ねられました。数カ月後に再び訪れると、子どもたちは思い思いの画材で画用紙からはみ出すくらい、自由に絵を描いていて、本当にびっくり！幼稚園の先生曰く「あなたに教わった」と。

学長　中国でも個性をのばす教育に変わったんですね。大岩さんの意見を柔軟に取り入れた中国の方々はフレキシビリティ(柔軟性)がある。唄というものは型にはまらず、想いのままに表現するものですよね。大岩さんは日頃からそういう活動をしておられるから、教育者としての魅力が、中国の教育者にも好影響を与えた。これぞ、真の教育者の姿です。

大岩　私の「教育」の基礎を作ってくれたのは、まさに島根大学なんです。

学長　島根大学から「特音(特別教科「音楽」校教員養成課程)」がなくなって随分経ちますが、人間力を育む教育の伝統は残っています。大岩さんが中国から何度も招待されるのは、人間力が魅力なのではないでしょうか。

大岩　確かに、政治も思想も関係なく、中国の方と本当にいい時間を過ごしてきました。敦煌市人民政府教育顧問として。そして、河南省対外友交協会特別理事、河南職技大学名誉教授、玄奘三蔵法師故里文化顧問、モンゴル草原音楽会員、それから島根大学ともゆかりのある銀川の寧夏大学…(笑)

学長　そうやって分かり合えると、今の日中問題など全然関係ない。互いの関係を深めていくことが、グローバル化をめざす島根大学に課せられた役割ではないかなと思います。

大岩　私は島根が大好きで、本当は島根から離れたくないくらい。外国の方に日本を案内する時も、ついつい島根に連れてきてしまうんです。

学長　大岩さんのように世界各地を回っていると、日本の魅力、島根の魅力が改めてよく分かるのでしょうね。

ふるさと・島根を愛する気持ちが世界平和につながる。

大岩　水の色、そして雲の流れ…島根にしかない魅力というのは、限りなくて。不思議な事に私のお客さまの前で、私のふるさとはきまって麗しい奇跡を魅せてくれるんです。

学長　ただありきたりな観光地を連れ歩くのと、「もてなしの心」を持って自分の大好きな場所を案内するのでは大きな違いがあって、それは必ず相手に伝わるものですよ。そういうことが自然にできるあたりが、大岩さんが遣島使（ふるさと親善大使の島根県版）として素晴らしいところですね。

大岩　純粋に「島根が好き」という想いだけなんです。

学長　それが、今の大岩さんの原点なんでしょうね。ふるさとが好きだという人は、同時に日本への愛国心も持っている。つまり、自分のふるさとに誇りを持って外の世界に出れば、その人自身が「海外から見た日本」になるわけです。

大岩　私は唄を通して幅広い年代の方と繋がることができてとても幸せな日々ですが、そのきっかけはやはりふるさとの唄から始まり、次から次へと新しいご縁が湧きおこってくる感覚があります。

そういえば学長と初めてお会いしたのも、唄のゲストとして参加させていただいた、東京での島根大学法文学部の同窓会でしたね。

学長　3月3日に古代出雲文化フォーラムを開催します。同窓会にたまたま参加されていた大岩さんと話をさせていただき、遣島使としての活動や世界での活躍をお聞きするうちに、ぜひこういう方にフォーラムを盛り上げていただきたいと思ったんです。

大岩　法文学部と縁遠かった教育学部卒の私と、急遽同窓会に参加された学長が出会うなんて、ご縁が繋がっていたんですね。フォーラムの準備委員として、お役に立てたらと楽しみにしています。

学長　日本人が、自国の文化やルーツを知り、確固としたアイデンティティとプライドを持って海外の人と自然体で付き合えたら、世界はもっと平和になるのではないでしょうか。一般の皆さんにそういうことに気付いていただき、その考えを広めていくことが、島根大学としても重要なことだと思います。今日はどうもありがとうございました。

（撮影協力　皆美館）

自国を知り、プライドを持つ。それがグローバル化にもつながる。

小林祥泰学長／1946年生まれ、出雲市出身。慶應義塾大学医学部卒業後、島根医科大学医学部教授、島根大学医学部附属病院長などを経て、2012年4月より島根大学長に就任。専門は神経内科学。

INFORMATION

ニューヨークでの反響が止まず、10月25日に大岩誓子さんが再度カーネギー大ホールで歌います。合唱出演またはVip客として同行する方を募集中です。（お問い合わせはFaxで048-977-3305）

農村での異文化交流から、グローバルな人材育成を

島根大学留学生の日本文化理解の更なる深化を図るため、島根大学と包括協定を結んでいる邑南町の協力のもと、9月7日から10日にかけて邑南町見学旅行を実施しました。留学生たちは何を体感したのでしょうか。3日目・4日目の様子をレポートします。

留学生15名が、邑南町で農家民泊を体験

古き良き日本の伝統と原風景が数多く残る島根県邑南町。島根大学では3年前から、この地で留学生の異文化交流プログラムを行っています。今回の参加者は10カ国からの留学生15名と、留学生をサポートする日本人の島根大学生4名。2日目の夜から2～3人ごとのグループに分かれ、農家での暮らしを体験します。

島根の伝統体験とふるさと交流 2012 in 邑南町

■島根大学からの参加留学生(出身国)

ベトナム	スリランカ
ギニア	キューバ
中国	モンゴル
ナイジェリア	ネパール
インドネシア	カンボジア

■実施スケジュール

1日目
- 石見銀山世界遺産センター(低融合銀制作体験)
- 石見銀山間歩散策
- 五百羅漢見学
- 石見神楽体験　など

邑南町いこいの村しまね(泊)

2日目
- 瑞穂ハンザケ自然館見学
- 田舎料理指導
- 農家民泊での田舎暮らし体験

邑南町農家民泊(泊)

3日目
- 農家民泊での田舎暮らし体験

邑南町農家民泊(泊)

4日目
- 阿須那小学校児童との異文化交流会および給食会
- 断魚渓見学
- 島根県立三瓶自然館サヒメル見学

留学生たちが農村体験した 邑南町(島根県邑智郡)

平成16年10月に「羽須美村」「瑞穂町」「石見町」の三町村合併により誕生。419.2㎢の面積に約12,000人・4,500世帯が生活しています。島根県の認可を受けた農家を民宿・民泊として開放し、豊かな自然を活かしたさまざまな体験や交流ができる「邑南町田舎ツーリズム」を通して、町の活性化をめざしています。

農村の「飾らない、ありのままの日本」に触れる

農家で一晩を過ごした留学生たち。3日目は各家庭ごとの工夫をこらしたもてなしで、邑南町ならではの体験を楽しみました。

民泊「やまぼうし」で田んぼの稲刈りを手伝った朱欣(シュキン)さん(中国)は「手ではなく、機械で稲刈りすることに驚いた」と話します。一緒に宿泊したアドハさん(インドネシア)は「私の国では年に3回米を収穫できるのに、日本では1回だけと聞いた。農業専攻なので、そのことにとても興味を持った」と話します。

また、生活習慣の違いにも、最初は驚きと発見の連続です。「いつもはソファに座る生活なので、床に座るスタイルに驚いた」(ヤングさん・スリランカ)「湯船に浸かる習慣がないので、お風呂に驚いたけれど、とてもリラックスできますね。気に入りました」(ダミアンさん・キューバ)など、外国人ならではの感想が聞かれました。

気になる食文化の違いについても、「日本食は見た目も美しく、どれを食べてもおいしい」と留学生たちは口を揃えます。中には「今日の昼食は私が作りました」という留学生もいて、ご家族の方と一緒に農家の暮らし、日本の文化を心から楽しんでいる様子でした。

ほとんどの留学生にとって、コンバインの運転は初体験。稲刈りを楽しみました。

ネパールからの留学生による手作りカレーに「本場の味はおいしいね」と農家の方もにっこり。

留学生の喜ぶ姿が、受け入れる側にとっても喜びに

農作業や食事の間、あちこちから笑い声が聞こえ、自然に会話が弾む留学生と邑南町の農家の方々。その様子はまるで本当の家族のようです。

留学生の受け入れを始めて2年目という「のぶしの宿」の礒部マリエさんはこう言います。「どの国の方が来られるか楽しみ。地図を用意して待っているんです

稲刈りの途中でちょっとひと息。それぞれの国の話で話題はつきません。

よ。食事も特別なメニューは作らず、いつも自分たちが食べているものをお出ししますが、皆残さず『おいしい、おいしい』と食べてくれるのが本当にうれしいですね。」

また、田舎体験交流協議会会長で、自らも留学生を受け入れている「今ちゃんの家」の今手喜三さんも「島根大学の留学生が来てくれるのは、大歓迎!」と話します。「田舎のおじいちゃん・おばあちゃん達は、最初こそ言葉や生活習慣の違いに対する不安を感じていたものの、片言の日本語でもコミュニケーションが取れるということが分かり、今では『家族が増えるみたい』と、心待ちにしているんですよ。これを機に、海外の方との交流はもちろん、邑南町のファンを増やしたいですね」と将来の夢を語ります。

家族への感謝の言葉であふれた、感動の「お別れ会」

4日目は、阿須那小学校にて、農家民泊の受け入れ先の家族とのお別れ会です。

お別れ会では、留学生代表としてナイジェリア出身のオースティンさんが日本語で挨拶。「短い時間だけど、とても良い思い出ができました。神楽や稲刈りなど日本の伝統を体験できたうえ、温かくもてなしていただいて、非常に感謝しています。神楽など日本の文化をナイジェリアに持ち帰り、世界がより良くなるよう努力したい」と語ると、その他の留学生たちからも「家族と過ごせてとても幸せ」「いろんな国の人と一緒に過ごせたことも良い経験になった」「邑南町はとても美しいところ。ここを去るのはとても寂しい。また家族に会いに訪れたい。」「自分の家のように自然に過ごせた。新しい家族ができたようでうれしい。」などと、様々な感想が聞かれました。それを受けて、田舎体験交流協議会会長の今手さんは「留学生の皆さんから『邑南町に来て良かった』と言っていただけるのが何よりうれしい。様々な体験を通して、皆さんの国と島根の架け橋になれれば。」と挨拶。その後、留学生たちと家族は一緒に記念写真を撮ったり、2日間の楽しかったできごとを語ったり、別れを惜しんでいました。

日本の家族との楽しい思い出ができました。

小学生との触れ合いを通して、さらに深まる異文化交流

そして、農家の人と同じくらい、留学生との交流を毎年楽しみにしている人たちがいます。それは、邑南町の小学校の児童たち！

今年は阿須那小学校の児童との交流会。まずは留学生たちが、自国の国旗や観光名所・有名な食べ物・自国語での挨拶などを、スライドを使って紹介。子どもたちからは口々に「きれい！」「おいしそう！」などの歓声と笑い声があがり、まだ見ぬ海外に思いを馳せ、目を輝かせていました。

その後は3つのグループに分かれて、留学生たちとの触れ合いタイムです。低学年の子どもたちは、海外のじゃんけんなど簡単なゲームを教えてもらって一緒に楽しみ、教室は笑い声に包まれました。中学年の子どもたちは、バスケットボールでコミュニケーションを楽しみ、高学年の子どもたちは海外の話を聞くなどして、あっという間に留学生と打ち解けていきます。留学生たちも、その純朴な様子に「みんな、本当にかわいい！」と目を細めていました。

最後は、全員で一緒に給食です。食べ物の話や学校の話などをしながら、いつもよりゆっくりと、そして賑やかに給食をいただきます。

留学生を乗せたバスが見えなくなるまで「バイバ～イ！」「また来てね」と手を振って見送った子どもたち。「外国のお兄さんやお姉さんといっぱい遊べてすごく楽しかった」「『ありがとう』『こんにちは』の外国語を教えてもらってうれしかった」「外国の珍しい話がいっぱい聞けた。大人になったら、自分も海外に行ってみたい」など、興奮気味に感想を述べてくれました。

留学生を交えて、白熱の試合。

まだ見ぬ海外の話に興味津々。文化や風習の違いに驚いていました。

初めての海外のゲームに子どもたちは大興奮。

阿須那小学校の子どもたちと。国籍や年齢・文化を超えて、温かな交流を愉しみました。

島根大学と海外、邑南町と海外を結ぶ架け橋として。

実は、この「海外に行ってみたい」と子どもたちが思うことは、島根県が掲げる「しまね教育ビジョン21」の目標とも一致しており、また、邑南教育がめざしている「世界へ羽ばたける力を子どもたちにつける」ということにもつながっています。

「これまで、邑南町の人々が外国の方と触れ合う機会はめったにありませんでした。しかし、このプログラムを通して、異文化を身近に感じることができるようになりました。」と語るのは、邑南町役場商工観光課の日高始課長。留学生を受け入れる農家の方だけでなく、街をあげての歓迎ムードが漂います。

また、今回のプログラムに同行した、本学国際交流センターの安藤安則副センター長は、田舎体験の意義をこう語ります。「留学生にとって、日本の本当の生活を体験できる、貴重な機会。また、留学生に同行する日本人の学生にとっても、日本にいながら国際的な感覚を養うよい機会になる」。

さらなるグローバル化と地域貢献を目標とする本学にとって、このプログラムはまさに理想の企画といえるでしょう。今後もこの交流が、ますます貴重な役割を担っていくものとなりそうです。

「世界に羽ばたく子どもたちを育成したい」と、邑南町役場の日高さん。

ゲームや給食を通してあっという間に仲良し!

牛の世話を体験した留学生も。

来たれ後輩 広島編

地域社会に貢献する卒業生のいまをご紹介。
それぞれの経験を通して伝えたい、
後輩たちへの想いをうかがいました。

Welcome, a senior

自分らしさを大切に、社会に順応する感性を培って。

呉信用金庫　常勤監事
大石和博さま
（文理学部法学科／昭和48年卒）

現在、信用金庫の監事（一般会社の監査役にあたる）をしていますが、大学を卒業し就いたのは国家公務員（大蔵省中国財務局）でした。当時の就職事情は“青田刈り”真っ盛りで、4回生に上がって気づくと周りはほぼ就職先の内定を取っていました。理不尽さを感じながらも、”デモシカ公務員“めざして受験勉強に集中。公務員試験合格後、島根山間育ちの素のまま面接会場に赴きました。垢抜けた風のライバルが7、8人いた中、どこが良かったのか、今でもよく採用されたと思います。30余年勤めたところで、金融機関の監督や検査業務の経験を買われ、現在の会社に招かれました。

最近の就活光景を見て感じるのは、クラブ歴の売り込みにせよ面接話法にせよ、金太郎アメになっているということ。見栄えに走りすぎて底が見えているように感じます。それよりか、実家に帰省した折、ご近所の人に会えば挨拶をし、親元の家事や畑仕事を手伝うほうが、社会に順応する感性が培われるのではないでしょうか。

Welcome, a senior

政令指定都市・広島市で、よりよい住民サービスをご提供。

広島市経済観光局　局次長
大東和政仁さま
（文理学部法律学科／昭和54年卒）

広島市に勤務する島大ＯＢは、事務・土木・農林・化学・消防・看護師・保育士など80名余り、これに教育現場を加えると更に多くのＯＢが活躍しています。

広島市は政令指定都市で、都道府県と同様の権限を数多く有し、国と直結した大都市行政を展開するとともに、一般の市町村と同様に、住民に一番身近な基礎自治体として市民目線に立った住民サービスを提供しています。

また、広島市には、他都市にはなく欠かすことのできない業務として、平和行政があります。

広島市は人類史上最初の原子爆弾による被爆体験を原点に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現をめざし、2020年までの核兵器廃絶を世界に訴え続けています。

毎年、8月6日には平和祈念式典が挙行されますが、7年前の式典では、私も、各国首脳や大使の招請や、式典当日の司会に携わりました。

広島市には各国要人の来訪も多く、その際には各部局から職員がアテンドとして同行する機会もあり、多くの語学堪能な若手職員がいます。

こんな広島市、あなたも一緒に働いてみませんか？興味のある方はいつでもお問い合わせください。

新企画

各界で活躍する
島根大学卒業生からのメッセージ

ようこそ先輩

Welcome, a senior

自分のやりたいこと、得意なことを社会に役立てる人に。

シャープ株式会社電子デバイス事業本部
福山生産センター　融合技術革新プロジェクトチーム
吾郷富士夫さま
（理学部物理学科／平成元年卒）

私は平成元年に物理学科を卒業後、シャープ株式会社に入社して23年になります。学生だった頃、パソコン好きが高じて「こういう面白くて楽しい機械を作っている会社に入りたい」と思ったのが入社の動機です。私がいる福山事業所では、家電製品に使われるＬＳＩや駆動用ＩＣなど半導体チップが主な生産品目で、最近では省エネ効果が期待される発光ダイオードも生産しています。これらの製品の製造技術者として、生産品質の向上、技術開発に携わっています。また、海外で働いている社員も大勢いて、今では海外勤務も珍しいことではなくなりました。

昨今盛んに報道されるように、日本の電機メーカーは非常に厳しい経営環境にさらされています。一方で電器製品が現代社会の生活に必要不可欠なのは今後も変わらないと思っています。皆さんに「来たれ」などとはとても申せませんが、自分のやりたいこと、得意なことを社会に役立てていこうとする後輩に同じ会社で会えたら幸せです。

Welcome, a senior

変化し続ける広島県庁で、自分は何ができるのか考える。

広島県農林水産局農業基盤課　課長
森光俊樹さま
（農学部農業工学科／昭和55年卒）

広島県と島根県は隣県で色々な面で関わりが深く、広島県庁でも多くの島根大学の卒業生が活躍しています。

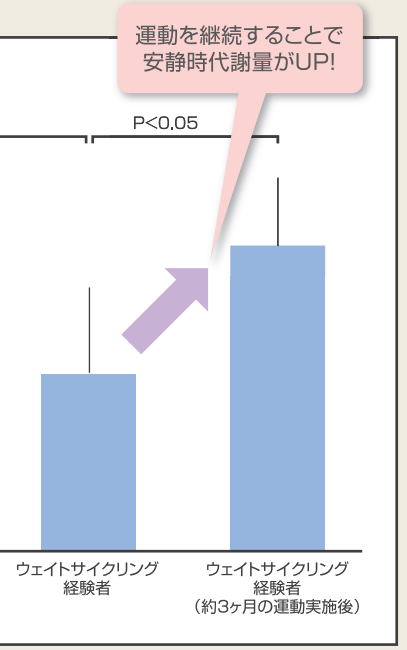
県行政は『桶の理論』です。細長い板を並べ箍（たが）で一体化した、いわば現在のバケツです。つまり、人づくり、経済成長、安心な暮らし、豊かな地域といった板を並べ、更にそれぞれの板は細かく分かれた施策の板から成っており「住み良い広島県」をめざすというベクトルで束ねられています。どこか一枚の板が短くても、「住み良い広島県」という水はその高さまでしか貯まりません。板一枚ごとに県民感覚を持って時代の流れや社会情勢の変化に敏感に対応することが求められています。

広島県庁への道には公務員試験というハードルがありますが、皆さんが広島県に関心を持ち、県庁職員となったら何をしたいのかを熱意を持って語れることが重要だと考えます。

多くの島根大学の後輩たちが入庁し、「住み良い広島県」実現のため、一緒に頑張ってくれることを期待しています。

まずは、自分の身体ありき。正しい知識で健康管理。

若い女性の間に蔓延する、強いやせ願望を危惧する原准教授。
不必要なダイエットがもたらす危険性について警告を発しています。
若いうちからの健康教育の大切さについて語っていただきました。



ウェイトサイクリング経験者の
運動実施前後の安静時代謝量

※BMI値の算出方法

$$\text{体重 [kg]} \div \left(\text{身長 [m]} \times \text{身長 [m]}\right)$$

‖

18.5〜25.0 が適正範囲

学生を対象に、仰臥位での酸素摂取量を測定。

健康の大切さは、若い時にはなかなか気付けないものです。だからこそ、学生には正しい知識を持ち、実践することの大切さを伝えたい。日本の未来を担う若い世代にこそ、健康に関する意識を高めて欲しいと思います。

教育学部
准教授　原（はら）　丈貴（たけたか）

客観的な指標で、自分自身の体型を正しく評価する力を養う

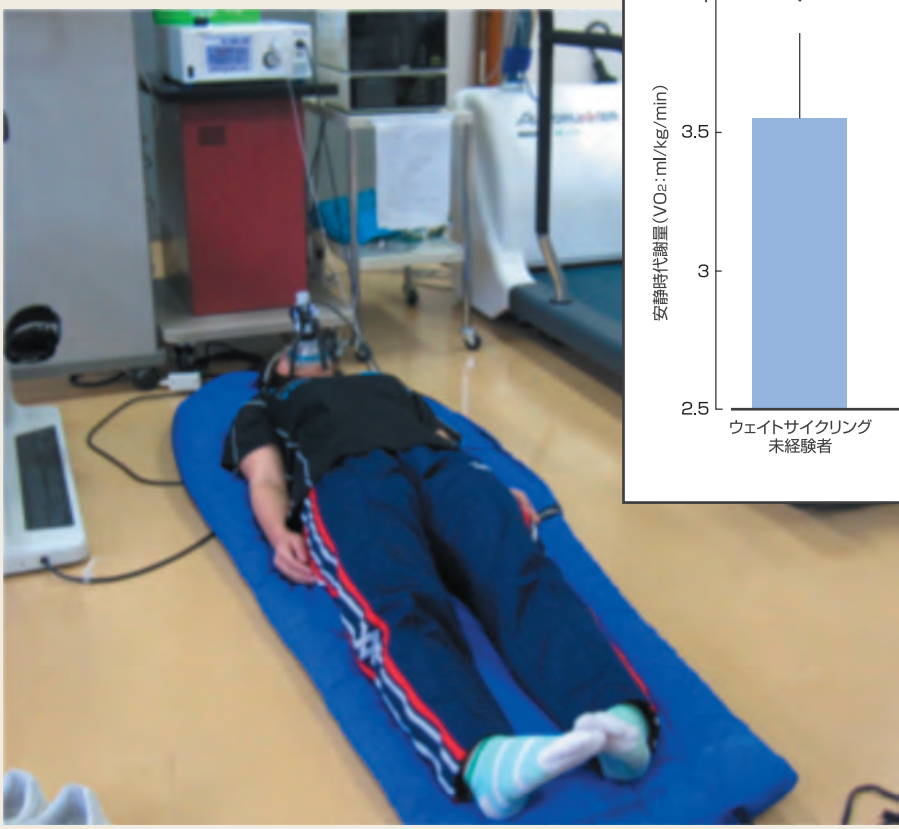
みなさんも一度くらいは「隠れ肥満」という言葉を耳にしたことがあるのではないでしょうか。ＢＭＩ値※が適正範囲（18・5〜25・0）にあっても、除脂肪量が少なく体脂肪率が高い人のことをいいます。原准教授は、女子大学生に協力してもらい、若年女性の体組成と代謝機能の関連性について研究しています。この研究で、隠れ肥満者やウェイトサイクリング（体重の変動を繰り返してしまうこと）経験者は、安静時代謝量が低下していることが分かりました。しかし、運動をすればその体質は改善されること、さらには部活動などに参加していなくても、日常生活の中でエネルギーを消費する動作などを心がければ、学生としての日常生活行動だけで健康の保持・増進に必要とされる活動量を確保できることも分かりました。「痩せたいという気持ちから、体重ばかりを気にしてしまうのは非常に危険。正しい知識を身に付けて、自分の健康を管理できる力を身につけてほしいと思います」と原准教授。「とはいえ、見た目ばかりを気にする社会環境にも原因がある。まずはそこから変えていくことも大切です」と提唱します。（原准教授）

バランス機能やジョギング中のエネルギー効率の改善に、５本指シューズの可能性を研究中。

原准教授のもうひとつの研究テーマ、それは「５本指シューズ」です。「まずは見た目のユニークさに引き付けられました。そして、履いてみると非常に安定感がある。これを研究してみたいと思いました」。そこで両足立ち、片足立ち時における重心動揺検査などを行った結果、５本指シューズの着用により、片足立ちなどの不安定な状況でのバランス機能が改善されることが分かりました。「この結果を受け、今後は高齢

5本指シューズを履いて、片足立ち、両足立ち時の重心移動距離を測定。片足立ちでは通常のスポーツシューズよりバランス機能が改善されることが分かりました。

つま先部分が指ごとに分かれた「5本指シューズ」は、底が薄く、裸足に近い形状。



島根大学の女子

者の転倒予防などに活用できないかと考えています」と原准教授は語ります。現在はジョギング中の着用効果についても研究中です。若い時からの健康管理、そして年を重ねてからの健康管理。方法は違えど、学生たちには「まずは自分の身体ありき」であることの認識を持ち、健康の大切さを実感してほしいと考えています。

また原准教授は、地域の方に対する健康づくり促進にも参加。まつえ市民大学や安来市での高齢者を対象とした健康教室の講師なども担当。「今後も大学内での活動にとどまらず、保護者への啓蒙活動など、幅広い年代に健康の正しい知識を知っていただき、地域に貢献したい」と意気込んでいました。

まつえ市民大学では、軽い運動やレクリエーションを指導。

ちょっと気になるキーワード

心疾患や高血圧のリスクが増加する「ウェイトサイクリング」とは

「ウェイトサイクリング」とは、減量しては体重が戻り、また減量するというリバウンドを繰り返すこと。運動を伴わない摂取エネルギー制限中心の減量は、除脂肪量の減少や交感神経活動の低下を引き起こすだけでなく、心疾患や高血圧のリスク増加にも関連していることや、死亡率の増加に繋がることが報告されています。ウェイトサイクリングにより、安静時代謝量の低下が予想されるため、運動を習慣化させることが必要です。原准教授の研究では、三カ月間の継続的な運動実践により、代謝がアップすることが示されました。

総合理工学部

地域として、どう生き残るか。優秀な人材の育成が課題。

地元企業を訪問し、困っていることを一緒に解決する。
自らの足で動き、積極的に産学連携に取り組んでいる山本准教授。
技術の向上と人材育成への取り組みについて話を伺いました。

研究室で自作した電気自動車を島根大学公用車として登録済。

もともと博士号を取った時は、大電力用を研究していたのですが、島根大学に来ることになった時「県内企業が取り組みやすい産学連携をやろう!」と決めました。島根から世界に挑む環境づくりをめざしています。

総合理工学部
准教授 山本（やまもと） 真義（まさよし）

世の中のニーズを把握し、企業とともに積極的に開発に挑む

山本准教授が所属する「島根大学パワーエレクトロニクス研究室」では、日本全国の一流企業との共同研究が多数行われています。例えばトヨタプリウスのプラグインハイブリッドカー用車載充電器。モーターやバッテリーなどの電源を小型化・軽量化に取り組むことで、燃費の改善のサポートはもちろん、車内スペースの確保にも一役買っています。

また、地元企業との共同研究にも力をいれています。例えば島根三洋電機と共同で行った、非常用電源装置の小型化。それまでのものより重量と容積を約1／4まで小さくし、お年寄りが持ち運びできるようにしました。自分がこれまで取り組んだことのないジャンルのことにも果敢に挑戦します。

「地元の企業と一緒に開発を進める上での苦労を強いて揚げるとすれば、地元企業に“研究にかける人材”がいないということ。大手企業であれば、企業の開発チームと島根大学の共同チームで進めていけますが、地元企業だとそうはいきません。研究室のメンバーが主体となって開発しなければいけません」（山本准教授）

優秀な人材を集め、地元・島根から世界へ発信をめざす

そこで山本准教授が目を付けたのが、優秀な高校生の確保です。「島根の高校生は、地元に残りたいという子が多い。そういう子たちの気持ちを汲んであげたい」。各高校に出向いて講演会や公開授業を行い、実際に何ができるかを見せるようにしています。

また、東京の企業にいた時、地方の弱さを痛感した経験から、人材の育成にいち早く目を付けました。幸い、各社からの引き合いも多いので、研究室のメンバーは島根にいながら一流企業の現場に触れる事ができます。さらには、国際会議や一流企業との連携で、世界の頂点を見せる機会を用意しています。

IEEE-ECCE2011（フェニックス・アリゾナ州）での学生自らによるプレゼン風景。

研究室のメンバーと。鍋大会をしたり、月に1回は飲みに行ったり、皆で楽しく研究生活を満喫しています。

地元企業と共同作成したEVとバッテリー充電器を東京ビッグサイトの全国展示会に出展し、山陰中央新報一面記事（2012年2月15日）や山陰経済ウィークリー（2012年2月28日）に掲載。

「自分が研究している技術が製品化につながり、企業に喜んでいただけるのが一番のやりがい。さらには就職難で困っている学生を企業に紹介できる関係になれたのもうれしい」と語る山本准教授。さらなる地元企業の活性化への取り組みの第一弾として、研究室の学生がベンチャー企業を立ち上げる予定です。「松江の地で世界に通じる研究をしながら、収入も得られるモデルづくりを」。山本准教授の熱意が、周りを動かしています。

高校への入学促進活動では、どんなものを作るのか実物に触ってもらいます。

ちょっと気になるキーワード

【世界最小を実現した「車載用バッテリー充電器」を実用化】

プラグインハイブリッドカーや電気自動車は、電気で動くことができますが、そのために大きなバッテリーや電力変換器を搭載しています。車の走行性能や車内スペース確保の観点から、バッテリー充電器等の電力変換器は小型軽量化が求められています。この小型軽量化技術において、世界最小を実現した「車載用バッテリー充電器」（116mm×279mm×225mm）をベンチャー企業である株式会社ＰＡＴと共同開発しました。東京ビッグサイトで開催されたオートモーティブ2012に出展し、全国報道もされています。

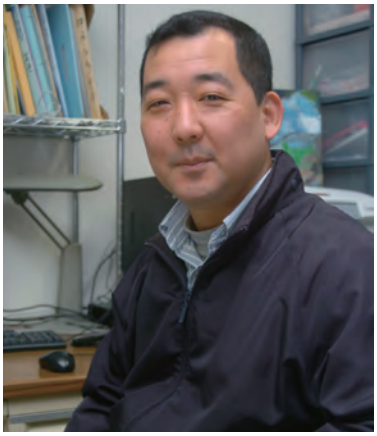
世界最小の車載用小型バッテリー充電器

品種改良で地域に貢献し、人を育てる

世界でも数少ないツツジ専門の研究者である小林教授ですが、
島根では「出雲おろち大根の生みの親」として有名です。
地域特産の植物遺伝資源を利用した研究活動について伺ってきました。

う。現在は紫や赤の「出雲おろち大根」を開発中。

群馬県館林市の専門職員時代には、ツツジという観光資源が多くの人を呼び、まちに利益をもたらし、地域に貢献できることを知りました。またアルゼンチンでは、JICA専門家として野生植物の品種化事業に携わって来ました。それらの経験を活かし、ここ島根で伝統野菜を使って地域に貢献できたらと考えています。



生物資源科学部
教授 小林（こばやし） 伸雄（のぶお）

地域原産「出雲おろち大根」で地域活性化

宍道湖畔や島根半島の浜辺に自生するハマダイコン。それを9年かけて品種改良し、商品化したのが「出雲おろち大根」です。

「ハマダイコンは全国どこにでもありますが、食べる習慣はあまりない。でも島根では蕎麦等の薬味として使われていると聞き、これを使って何かしてみようと思ったのが、研究を始めたきっかけです」と小林伸雄教授は語ります。

開発にあたっては、生産農家に向けての講演や情報交換会をはじめ、試食会なども積極的に開催したといいます。

「品種改良しても、実際に口に入れてもらわなければ意味がありません。そのため、地域のそば屋や料理店に足を運び、地域の人とともに出雲おろち大根の辛味とうま味を活かすメニューの開発にも取り組みました。」

そのような地道な活動のおかげで、出雲おろち大根は島根の特産野菜として、首都圏の高級スーパーなどでも販売されるまでになりました。

「地域にあるものを使うからこそ、価値がある。まちの観光資源として、地域に貢献できると思うんです。」（小林教授）

品種改良を通して、技術者の養成もめざす

小林教授は、出雲おろち大根の試食会や農家との交流会の場に、学生を同席させることもあるといいます。「自分が関わったものを『おいしい』と食べてもらえて、そのうえ商売になる。研究の成果が目に見えるので、学生たちも手応えを感じることができる。」（小林教授）学生には、自分が取り組んだ研究が社会にどう役立つかをしっかり理解し、他人に分かりやすく説明できるようになってほしいと望んでいます。

また今後の活動目標については、「第2のおろち大根」を探すと同時に、専門であるツツジの研究を挙げられました。

「山陰特産のキシツツジのような野生種や、江戸時代に発

講演会や試食会には積極的に参加。地域の人の声を品種改良に活かしました。

学生と教授による力作、「出雲おろち大根」のロゴマーク。

「出雲おろち大根」

ヒゲ根の多い形状は、まさに出雲神話の「ヤマタノオロチ」のよ

達した100日間以上花が散らないツツジなどの遺伝子を研究し、新品種育成に活用したい」と語ります。

そのためにも、優れた技術者や研究者の養成は欠かせません。地域社会開発や国内外の園芸産業の発展に貢献することを目的とした教育・研究を進めていきたい、と意気込みを語られました。

広い視野を持つ技術者や研究者の養成も、大切な仕事のひとつ。

ちょっと気になるキーワード

出雲原産の新香辛野菜「出雲おろち大根」

登録品種名『スサノオ』

辛さが特徴の「出雲おろち大根」。辛味成分イソチオシアネートが通常の青首大根の3倍～5倍も含まれており、殺菌作用や細胞増殖抑制作用等の機能性に優れています。また、野生のハマダイコンとの大きな違いは、形が整っており太さがあること、とう立ちが遅いので長い期間楽しめること。さらに栽培法は普通のダイコンに準じますので、家庭でも簡単に栽培できます。今後ますます身近な食材になりそうです。

〈お問い合わせ先〉
島根大学生物資源科学部
附属生物資源教育研究センター　本庄総合農場
〒690-1102　松江市上本庄町2059
TEL0852(34)0311　FAX　0852(34)1823

島根大学の財務活動

今回、初めて広報しまだいで本学の財務状況をご紹介することになりました。
できるだけわかりやすく解説しておりますが、詳しい情報については、
公式ホームページ（http://www.shimane-u.ac.jp/）でも公開していますのでご覧ください。

教職員数・学生数など

■教職員数

役員	9人
教職員数	1,866人
教育職員	777人
一般職員	431人
医療職員	658人

（2012.5.1現在）

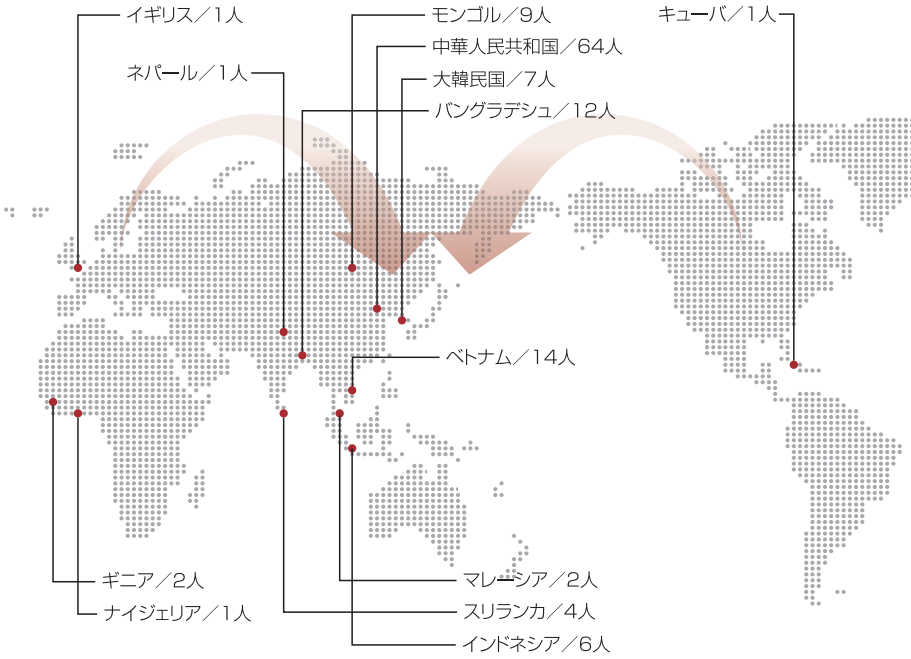
■学生数

（留学生数を内数で表す）

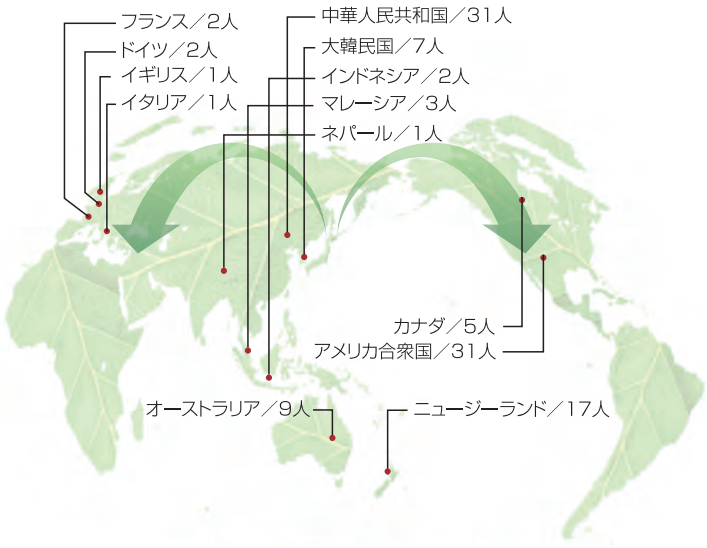
総学生数	6,130人	（124）
学士課程	5,399人	（52）
修士課程	513人	（34）
博士課程	183人	（38）
専門職学位課程	35人	

（2012.5.1現在）

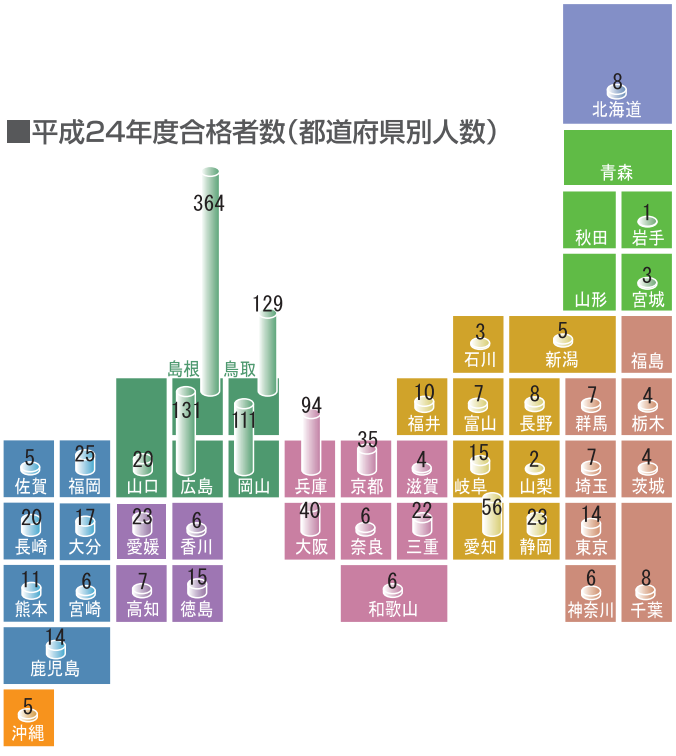
■本学への留学生出身国



■本学からの留学先（平成22年度）



■平成24年度合格者数（都道府県別人数）



島根大学が地域に与える経済効果

◎生産誘発効果……404億円
◎雇用創出数……7,450人
島根大学の年間の教育研究活動等によって、島根県内に上記の経済効果が発生

■県内最終需要額（直接効果）
277億円

■付加価値誘発額
251億円（県内総生産の1.0%）

■雇用創出数
7,450人（県内従業者の1.7%）

大学の研究教育の継続性から
島根大学の経済効果は
継続的かつ安定的に生じる

調査機関：株式会社 山陰経済経営研究所（2008年9月 調査時点）

【島根大学】
入学者数・・・約1,500人
●入学者数のうち県外出身者……約950人
●入学者数のうち29歳以下の入学者・・・約1,450人
※3年次編入学生、外国人留学生は含めない。

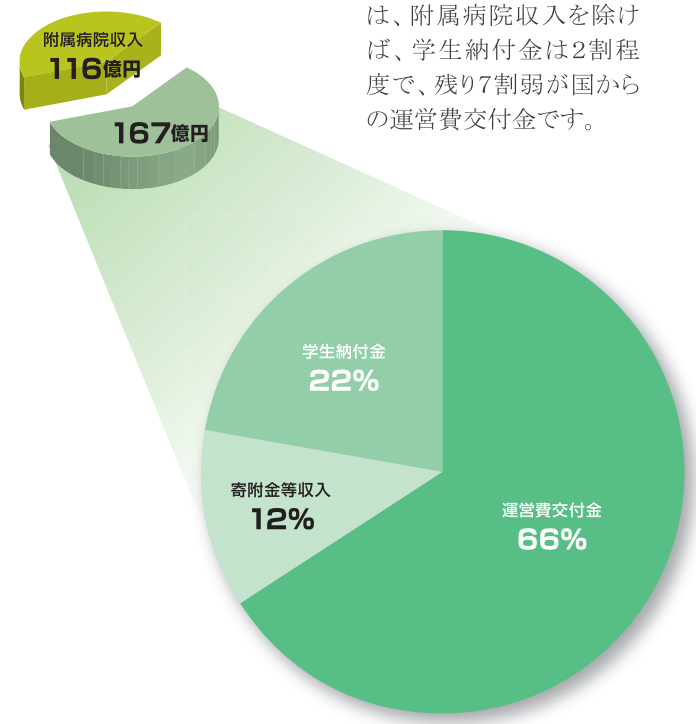
29歳以下の減少数・・・1,730人
島根県の人口減少数・・・5,061人
平成23年10月1日現在
島根の人口移動と推計人口（島根県政策企画局統計調査課）から算出しています。

島根県の29歳以下人口の減少数は**約1,700人**です。
一方、島根大学では、毎年新たに**約1,500人**の学生を迎え、そのほとんどが**29歳以下**の学生です。

収入・支出決算額

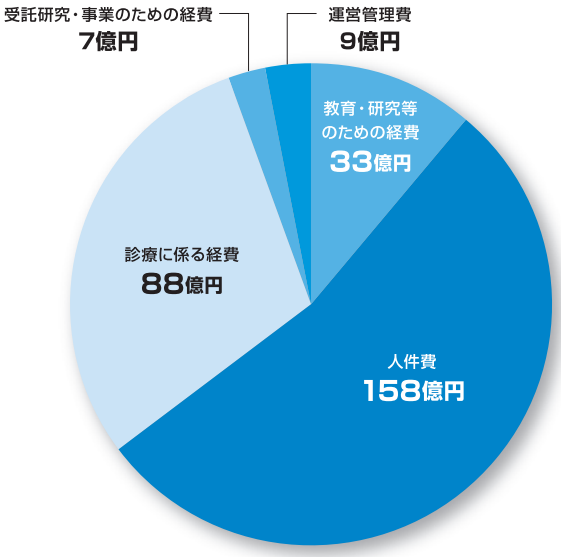
■収　入……283億円

本学の運営に必要な収入は、附属病院収入を除けば、学生納付金は2割程度で、残り7割弱が国からの運営費交付金です。



■支　出……295億円

本学の支出の約1／2が教職員の人件費であり、高等教育機関として、人材育成するために必要な最大の費用です。附属病院収入は診療に係る経費と看護師等の人件費に充てられています。



topic 01

安全・安心な地域社会の実現をサポート

島根県警察と包括的連携・協力に関する協定を締結

10月31日、島根県警察本部において、小林祥泰学長・彦坂正人島根県警察本部長のほか関係者が出席し、本学と島根県警察との包括的連携・協力に関する協定の締結式が行われました。

本学と島根県警察は、これまでも防犯活動等において連携・協力を進めてきましたが、この度の協定の締結により「安全・安心な地域社会の実現」に向けてさらに組織相互の連携・協力を推進していくものです。

締結式で小林学長からは「地域貢献は本学の重要な使命。この協定を学生の教育面に生かすとともに、新しいアイディアを出して活動を行っていきたい。」と挨拶。本学学生が地域貢献活動に参加することで、学生自身の人間力の向上にも資するものと期待しています。

topic 02

日本とドイツの国際交流のかけ橋に

駐日ドイツ大使による、日独協会発足記念講演を開催

10月25日、駐日ドイツ大使のフォルカー・シュタンツェル氏が本学を訪れ「歴史の教訓-150年の日独交流の歴史が我々に教えるもの」をテーマに松江日独協会発足記念講演会が行われ、一般の方や学生および教職員で会場は満員の大盛況となりました。

大使は京都大学での留学経験もあり、日本文化・歴史への造詣も深く、厚みのある教養・経験に裏付けられた流暢な日本語による講演は、大変聴きごたえのあるものでした。

また、歴史的な観点から、現在のドイツ、日本が共有する諸問題についてもコメント。特に震災以降日本で問題となっている原発廃止に関する論議に関しては、ドイツでは20年にもわたり議論してきた経緯があり、日本との認識の違いなどが紹介され、聴講者の関心を集めていました。

これを機に、松江日独協会の発展、日独の国際交流がますます活発になることが期待され、意義深い講演会となりました。

topic 03

さらなる知識と技術の向上をめざして

第3回赤十字救急法競技大会「心肺蘇生の部門」で2年連続優勝！

11月3日、島根県立武道館において、日本赤十字社島根県支部主催による第3回赤十字救急法競技大会が開催され、本学の学生3チームと職員1チームが出場しました。

日頃の練習成果を発揮し、職員チームは心肺蘇生の部で2年連続優勝、三角巾包帯法の部では惜しくも準優勝でした。また、学生チームも三角巾包帯法の部で第3位に入賞しました。

松江キャンパスでは、学生を含め約6千人が諸活動を行っており、職員を対象にAED（自動体外式除細動器）を使用した救急法講習会を年2回実施しています。今後も万一に備えて、講習の開催や競技会への参加など、技能の習得・向上に努めます。

topic 04

建築家の登竜門で快挙を達成

日本建築学会設計競技にて優秀賞を受賞

9月12日に開催された「日本建築学会大会」において、本学大学院生の山根大知さん・宮崎照さん（総合理工学研究科総合理工学専攻建築・生産設計工学コース）、本学4年の酒井直哉さん・稲垣伸彦さん（総合理工学部材料プロセス工学科）が、日本建築学会設計競技優秀賞（全国入選・中国支部入選）を受賞しました。

大学院・学部開講授業「建築設計特別演習Ⅲ」「建築設計製図Ⅳ」の一環として取り組んだもので、漁師たちの交流の場となる海上参道をあらたに提案。三百数十点の応募作品の中から受賞に至りました。

topic 05

高校生の早期の進路決定をサポート

高校生が島根大学を訪問

本学では、高大連携の取り組みの中で、施設見学や学部説明、授業見学などを行い、施設の開放を実施しています。

11月6日、県内から島根中央高校・平田高校・飯南高校、そして岡山県から玉島高校の生徒（約270名）が本学を訪問しました。

当日は、大学説明や模擬授業などを受けたほか、実験機器等を見学。高校生たちは熱心に講義を受け、学内の施設等を興味深く見学していました。

今年度は12校が合同で大学訪問に参加する予定です。

印刷テクノロジーで、
世界を変える。
TOPPAN
凸版印刷株式会社 www.toppan.co.jp
松江営業所 〒690-0887島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中
生物資源科学部神西砂丘農場で生産された
サツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」
●神在（かみあり）の里（720ml）2本入りセット…3150円（税込）
島根大学生活協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL0852-32-6240
http://omise.seikyou.jp/shimane

松江キャンパス

弾き語りサークル
［スナフキン］

仲の良さも自慢のひとつ。ライブでは息もぴったり。

音楽の力で
我が大学を盛り上げ
地域を元気に!!

「スナフキン」は根っから音楽好きなメンバーが揃った弾き語りサークルです。火・水・土曜と週3回の練習日には課外活動共用施設の大集会室に続々と集い、グループごとに練習に没頭。ギターに合わせてゆずやコブクロなど今をときめくアーティストの楽曲や古今東西の名曲を歌いこみ、個々の音楽の世界をつくりあげようと懸命です。

「日ごろは和気あいあいとした雰囲気も練習では一変。厳しい意見が飛び交います」と部長の杉本悠さん(法文学部3年生)。

定期ライブは年4回。学祭ライブでは80から100曲を披露しています。その他ミニライブや学外施設でのライブ、地域の祭りや店に出向くことも。

「願わくば、とかく盛り上がりに欠ける島大を音楽の力で熱くし、地域も盛り上げたい」とハートのこもったライブを繰り広げています。

2012年最後のライブに向けて気合いこもる練習風景。一曲、一曲に心をこめて仕上げていきます。

出雲キャンパス

［医学部硬式テニス部］
看護学科

女子学生はもちろん男子学生の入部、大歓迎です!

テニスは真剣に、
練習時間外は楽しく。
部活動にめりはりを演出。

テストや病院実習など多忙な中、全部員が学業と部活動をしっかり両立させている医学部硬式テニス部。総勢45名のうち12名が看護学科部員です。

今はシーズンオフですが、シーズン中は医学科部員と共に月・水・土曜の週3回の練習に励み、他大学との対外試合も行っています。

テニス以外にも部員同士で楽しむ時間をつくろうと、いろいろな行事を企画開催。部員間の親睦をはかっています。

昨年は西日本コメディカル大会でベスト4に。今年は1回戦で敗退しましたが、大会運営を担う主管役を務めあげました。

来年は中四国医科学生体育大会で主管を担当することになります。「同大会成功とともに、西日本コメディカル大会では必ず1勝を!」と看護学科キャプテン野中友絵さん(看護学科2年生)。新年度に向けて士気を高めています。

試合前には円陣を組んでチームー丸に。新年度も日々の練習と団結力を武器に勝利をつかみにいきます。

島根大学は、島根スサノオマジックを応援しています!

神話第参章、好調な船出

10月に開幕した島根スサノオマジックの神話第参章。11月末で全26節(52試合)のうちの7節14試合(11月30日現在)を消化し9勝5敗という、西地区全10チーム中3位の好位置をキープしています。今号ではその14試合の戦いをプレイバック!

10/13・14	対 ライジング福岡(松江) 過去1勝7敗と相性の悪い福岡に開幕連勝と、これ以上のないスタート。	90−75(○)	81−64(○)
10/20・21	対 宮崎シャイニングサンズ(雲南/安来) 今季より宮崎の名将・北郷HCが指揮を執るも、世界の名将"ジェリコ"スサノオの圧勝。	77−63(○)	86−78(○)
10/27・28	対 浜松・東三河フェニックス(浜松) 開幕4連勝で敵地に乗り込むも、昨季の王者の壁は高く失意の2連敗。	86−99(●)	70−85(●)
11/3・4	対 京都ハンナリーズ(浜田) 過去2シーズン浜田で4連勝中、そして今年も2連勝で浜田の不敗神話は6に。	70−66(○)	93−86(○)
11/10・11	対 高松ファイブアローズ(丸亀) 昨シーズン対高松6連勝も今季はいきなりの敗戦。高松の外人選手4人全員が2桁得点。	61−72(●)	70−59(○)
11/17・18	対 滋賀レイクスターズ(松江) 初戦、得点源のパーカー選手のフリースローが11本中3本しか決まらず、勝利を逃す結果に。	72−74(●)	65−75(●)
11/23・24	対 大阪エヴェッサ(橿原) 初戦、第4Qに7点差を跳ね返しての逆転勝利。前節からの連敗を断ち、アウェイで連勝。	82−77(○)	87−84(○)

12/15・16は、現在12戦全勝の首位の沖縄に乗り込んでの戦いが待ち受けます。
スサノオマジックが沖縄に今シーズン初の黒星をつけることができるか!! 要注目カードです。

島根スサノオマジックの最新情報は 島根スサノオマジック 検索

お問い合わせ先
島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866(平日10時~18時)

島根スサノオマジックの試合・チケット情報は島根スサノオマジック公式HPでチェック
http://www.susanoo-m.com/

★島大生のホームゲーム運営サポートボランティアも募集中! 詳しくは学生支援センターまで。

島根大学支援基金寄附者一覧(個人からのご寄附) ご協力ありがとうございました。

(平成24年9月~11月にご寄附いただいた皆様)
(五十音順・敬称略)

板村 裕之	大森 範明	澤 須美夫	竹内 美佐子	土谷 治久	肥後 功一	山崎 征爾
上野 誠	加藤 誠	塩飽 邦憲	武田 育郎	中島 一浩	藤田 恭久	山本 則文
円能寺 真一	小林 祥泰	髙取 謙次	竹谷 健	西田 英男	元上 竹松	山本 弘正
大浜 誠一郎	笹間 賢一	竹内 潤	竹永 三男	馬場 正裕	山内 美香	

島根大学では学生に対する修学支援を一層充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。
寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。
TEL:0852−32−6603(総務課) ホームページ http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

投稿のお願い

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしています。

投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室
FAX: 0852-32-6019
E-mail: jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp
ホームページ: http://www.shimane-u.ac.jp

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工されたオリジナル「リンゴジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成25年3月15日必着

新規オープン
学生ポータルサイト
ウェルカム島大
島大生による学生生活情報満載!
ぜひ一度ご覧ください。

http://www.welcome.shimane-u.ac.jp

編集後記

本格的な冬到来を迎え、みなさま年末年始は如何お過ごしになりましたか? ふるさとで過ごすお正月は、親戚や友人との再会がうれしいものですね。私は2年前に福岡から松江に引っ越してきました。噂通り、山陰の冬は非常に寒く、春が待ち遠しいのですが、子ども達は雪だるまに雪合戦、スキーにも挑戦すると張り切っています。

昨年も「広報しまだい」をご愛読いただきましてありがとうございました。今年も楽しい誌面をお届けできるよう精進してまいりますので、ご期待ください。まだまだ寒い日が続きますが、健康的な1年となりますように。

島根大学広報誌 Shimadai 2013年1月発行 編集・発行／島根大学 広報室 〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL(0852)32-6603 FAX(0852)32-6019 http://www.shimane-u.ac.jp/

神々の国 しまね
古事記 1300年

古代出雲文化フォーラム

Forum on Ancient Izumo Culture

～ 神話・青銅器・たたら ～

青戸 慧 作
「大国主命と白兎」 加納美術館所蔵

文化庁所蔵
「東京大学工学・情報理工学図書館工4号館図書室A」所蔵

参加無料

定員780名[先着順]

※参加には事前のお申し込みが必要です。

平成25年 3月3日(日)

会場 **有楽町朝日ホール**
東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町マリオン 11F

主催 島根大学
共催 島根県、島根県教育委員会、松江市、出雲市、安来市、雲南市
後援 山陰中央テレビジョン放送株式会社(TSK)、株式会社山陰中央新報社、株式会社山陰放送(BSS)、株式会社山陰合同銀行（順不同）

司会：石原 美和（元 TSKアナウンサー）

第1部 13:00～15:30

開会挨拶
小林 祥泰 島根大学長

アカデミックセッション

基調講演「古代出雲の世界」
大日方 克己 島根大学法文学部教授

1.「出雲の青銅器文化」
松本 岩雄 島根県教育庁文化財専門官

2.「出雲の四隅突出型墳丘墓」
會下 和宏 島根大学ミュージアム准教授

3-(1)「古代出雲の鉄文化」
角田 徳幸 島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員

3-(2)「現代に生きるたたらと日本刀の科学」
八十 致雄 和鋼博物館館長

第2部 15:40～16:40

カルチャーセッション

1. 鼎談「古事記出雲神話のロマン」
福島 敦子（キャスター・エッセイスト）
佐野 史郎（俳優）
小林 祥泰

2. 演奏「出雲神話バラード」
作曲・指揮 河添 達也 島根大学教育学部教授
演奏 NHK交響楽団員によるクラリネット＋弦楽四重奏

お申し込み 平成24年9月1日から、島根大学ホームページ・FAX・ハガキにて申込受付開始

お問い合わせ先 島根大学 島根大学総務部総務課
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
TEL(0852)32-6606 FAX(0852)32-6019
HP http://www.shimane-u.ac.jp E-mail forum@jm.shimane-u.ac.jp

既に定員を超えるお申し込みをいただいております。
今後のお申し込みは全てキャンセル待ちでのお申し込みとなりますのでご注意ください。